

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制

評価実施日	平成 30 年 2 月 20 日 (火)		
委員	氏名	所属等	備考
	家藤 治幸	学校評議員、愛媛大学客員教授	
	川尻 純滋	学校評議員、宇和島信用金庫 業務推進部 課長	
	黒澤 寿美	学校評議員、環太平洋大学短期大学部 教授	
	堀口 昌彦	学校評議員、宇和島警察署 生活安全課長	
	玉井 知子	学校評議員、愛媛新聞社 南予支社長	
	井伊 直哉	株式会社宇和島プロジェクト 管理部 部長	
	山本 浅幸	宇和島市立城東中学校長	
	梁瀬 研介	P T A会長	
	芳谷 圭一	定時制教育振興会長	

評価・提言等	提言等に対する改善策等
<p>1 自己評価の各領域について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア アクティブ・ラーニングへの取り組みにおいて、授業改善の結果が徐々に成果を挙げていると評価できる。SSHの取り組みはイコールアクティブ・ラーニングだと考えられ、外部機関との連携や地域との関わりなどうまく展開されている。この取り組みは今後とも継続してほしい。また、授業の充実に向けてICTの活用も充実させてほしい。</p> <p>イ 進学においては、現役合格率が高く、浪人して難関大学を目指す生徒が少ない。生徒の実力を見極めた的確できめ細かい進学指導ができているとも言えるが、生徒が希望する大学への受験ができていない状況があるのではないかと。生徒の伸びしろを考慮し、より難易度の高い大学へのチャレンジをさせることがもっとあってよいのではないだろうか。</p> <p>ウ 就職して必要となる応用力・対応力・順応力の養成やAIにとって代わられない人材育成という視点で教育活動に取り組んでほしい。また、生徒に地域の産業や文化、歴史を体感させることで、シビック・プライドを高めてほしい。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 図書館活用がうまくシステム化されている。「読書の勧め」で、目標には達しなかったとはいえ、読書冊数は年々増加しており、地道な「朝の読書」の実施の成果が確実に表れていると言える。今後ともこの取り組みを継続していただきたい。</p> <p>イ 生徒のアンケート結果から、教育相談の評価が向上している。先生方の努力の表れであると言える。引き続き困難を抱える生徒へのきめ細かい対応を心掛けていただきたい。</p> <p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 生徒のアンケート結果では、学校行事に対する評価が低くなっている。学校行事の意義、在り方を再度、継続的に検討する必要があるように思う。</p> <p>イ 学校規模の縮小と部活動の数を考慮すると、部活動の在り方を見直す必要はあると考えるが、レベルの維持、向上にも努めていただきたい</p>	<p>1 自己評価の各領域について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア 教科を越えた授業研修が充実している。この機会を十分確保しつつ今後は教科横断型の授業の研究をしていくことで、生徒の主体的で対話的な学びを発展させていきたい。また、来年度は新たなICT教材の導入があるので、その活用方法を研究し、積極的に授業に活用していくことでアクティブ・ラーニングの充実を図りたい。</p> <p>イ 進学指導に関して学校がするべきことは、本人の希望・保護者の願いに対して、どんな選択肢や情報があるのかを提供し、最終的に本人（保護者）の意思を尊重することであると考えている。教師・本人・保護者のコミュニケーションをより大切にするとともに、本人の能力等を鑑み、行ける大学という安易な選択に陥らず、本人（保護者）が納得する進学指導を行ってほしい。</p> <p>ウ SSHの設定科目であるRSIでは、地域の自然や文化、産業を素材に研究し、校内外で発表を行っている。来年度も引き続きSSH事業を継続し、課題研究の質を高めたり発表の仕方を工夫させたりすることで、生徒の様々な能力を引き出すとともに、シビック・プライドの向上も図ってほしい。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 図書委員による新着図書の紹介やビブリオバトルなどを引き続き実施していきたい。「朝の読書」については、生徒が自主的に取り組める態勢作りの工夫を今後ともしていきたい。</p> <p>イ 不登校傾向の生徒や配慮を要する生徒が増加しているため、教職員間での情報共有やサポート体制の充実をより図っていく必要がある。</p> <p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 学校行事計画の見直しは視野に入れてはいるが、来年度も短い準備期間での学校行事となる。生徒には、限られた時間を有効活用することを意識させ、達成感を味わせるような取り組みになるよう努めたい。</p> <p>イ アクティブ・ラーニングに向けた教材研究や各種行事への対応等に追われ、教員に過剰な負担がかかっている状況であ</p>

<p>い。また、運営費等の問題があれば外部団体への協力を求める等の働きかけをしていただきたい。</p> <p>2 定時制について 先生方が一丸となり、生徒たちにきめ細かく接していることがよく理解でき、高く評価できる。定時制の特色ある取り組みとして、和太鼓演奏に継続して取り組んでほしい。また、取り組みにあたっては、地域の太鼓集団と連携を図ってはどうか。</p> <p>3 説明・公表について 学校評価アンケートは、答えやすくまた詳細に評価できるよう整理されており適切である。また、随所に学校のきめ細かい指導や工夫が垣間見られる。</p> <p>4 学校運営について 全体的に教職員の方々の多大な努力により、良い学校運営ができていると思う。SSHの積極的、精力的活動により校長先生も自認されている通り教員の指導力が向上し、生徒の伸びや宇和島東の学校力が格段に上がっていると思う。その努力を高く評価したい。</p>	<p>る。今後部活動の再編を行うことでその負担軽減を図りたい。また、各部の運営においては、必要に応じて外部団体との連携を図り、部活動の活性化を図っていきたい。</p> <p>2 定時制について 平成29年度は、定時制開設10周年という節目の年でもあり、例年以上に学校行事等の充実を図ることができたことが評価につながったように思う。和太鼓演奏については、継続するための課題も多いことから、生徒の希望や他の学習活動とのバランスを考えながら、慎重に検討することとしたい。</p> <p>3 説明・公表について 今後とも自己評価表の目標に合わせ、変更があればそれに応じて学校評価アンケートの項目も再考し、目標の適切な評価ができるようにしていきたい。</p> <p>4 学校運営について 校長のリーダーシップの元、全校体制によるSSHへの取り組みをさらに充実させることで、地域の期待に応えながら、生徒の夢の実現を目指すため、全教職員が一致団結して取り組みたい。</p>
---	---